

日々の祈りによる力

ダニエル書6章

ダニエルは、その文書の署名されたことを知って家に帰り、……以前からおこなっていたように、一日に三度ずつ、ひざをかがめて神の前に祈り、かつ感謝した。(10)

新しい王ダリヨスは、全国に百二十人の総督を立て、さらにその上に三人の総監を立てました。ダリヨス王の寵愛を受けていたダニエルは、総監の一人に任命されました。

他の側近たちはダニエルをねたみ、ダニエルを失脚させる計画を立てました。これから三十日間、ダリヨス王以外のものを拜んではならないという禁令を王に提案し、受け入れられました。総監たちの陰謀を知ったダニエルはあわてふためくことなく、「以前からおこなっていたように、一日に三度ずつ、ひざをかがめて神の前に祈り、かつ感謝した」といのです。この危急のときにも、「いつものように」(新改訳)、真の神を礼拝したのです。このことが王に知られ、禁令通りダニエルは獅子の穴に投げ入れられますが、神はダニエルを獅子の口から守つてくださり、ダニエルは傷一つ負うことなく助け出されました。獅子の口から守られたこと以上に驚くべきことは、真の神への礼拝が禁じられたときにも、これまでと変わることなく主を礼拝し続けたダニエルの信仰です。普段の生活の中で、いつものように神に祈り、神に礼拝をささげ続けることが、いざというときに大きな力を与えるのです。

わたしたちの祈りや礼拝が、何か支障があるとすぐにやめてしまうようなものではなく、どんなときにも変わらず、いつものようにささげられるようにと願います。